

草木原第3石鍋製作遺跡

事務局

去る2008年11月29日、長崎石鍋記録会で草木原石鍋製作遺跡（長崎県西海市大瀬戸町多良内郷）の踏査を実施しました。この周辺は地元住民の話によると圃場整備事業のため工事をしているとのことでした。しばらく周辺を散策していると、2m×2mの箱掘りされた穴を幾つか発見しました。一般の方にはわかりにくいでしょうが、これらの穴は遺跡の存在の有無を確認するために行われた調査で、この場所は「奉還遺跡」の名前で登録されています。文化財の調査は基本的に教育委員会が行うことになっています。したがって、調査は西海市教育委員会あるいは長崎県教育委員会のどちらかが実施したと思われる。試し掘りの結果がどうなったかはわかりませんが、遺物（石器や土器）が出土していれば本格的な調査が行われるでしょう。

私たちは奉還遺跡の見学をした後に東の谷に向かいました。この辺りは変成岩がよくみられます。しかし、私たちがみたものは蛇紋岩でした。これは滑石の存在を意味します。滑石は蛇紋岩の熱変成作用によってできますが、この滑石を用いて作られたのが石鍋なのです。私たちはすぐに草木原第3石鍋製作遺跡を発見しました。ここも奉還遺跡と同じく発掘されていました。ほかに2箇所発掘されていました。次に製作遺跡についての感想を報告させていただきます。

露头した滑石の面は東を向いた面に石鍋掘削の痕跡がありました。規模は縦約3m×横約6mといった所でしょうか。一見、「坑道内掘削」にみえましたが、実際は「岩壁面掘削」による路頭面の剥ぎ取りでした。壁面には多くのノミによる掘削痕が残っていましたが、私の知る限り、「方形割付」と「円形割付」による石鍋の掘削法が確認できました。方形割付は一辺が40cm～50cmで四隅が角ばっていました。また、円形割付は直径が約60cmの大きな剥ぎ取り痕でした。周辺部には石垣が残っていましたが、これらの中に鏝付型の石鍋が紛れ込んでいました。掘削法とそれに伴う石鍋未成品の状況から、当製作遺跡は縦耳型石鍋から鏝付型石鍋まで存続したということがわかりました。しかも鏝付型石鍋の完成品は残された剥ぎ取り痕から、おそらく直径が30cm前後のものになると推測できます。つまり、鏝付型石鍋の初期段階であるとした結論がでてくるのです。これを数字に置き換えると、10世紀から13世紀までの間当製作遺跡は存続したことがわかります。これは東貴之氏がかつて述べた「岩壁面掘削」の存続時期（案）と同様の結果を示すもので、当製作遺跡は東説の補強となり得ると思われれます。小規模な製作遺跡ですが、大変重要なことを知らせてくれました。長崎石鍋記録会の会員にとっても大変嬉しい結果でした。また、岩壁面の上部は「方形割付」、下部は「円形割付」にわけることができました。それは石鍋の掘削は上部から行われたという1つの案を示してくれます。この説は長崎石鍋記録会にとっては大きな収穫で、今後、他の製作遺跡の岩壁面掘削の場所特定に大きなヒントを与えてくれました。この岩壁面の下は試し掘りを入れていましたが、掘削痕はさらに地中まで続いていました。まだ、掘りきっていないのでしょう。岩壁面の最終的な掘削規模は不明のままです。

また、問題となる点も2つありました。1つはズリの問題です。周辺部を散策しましたが、

草木原第3製作遺跡（ホームページ版）

東側の谷部に一部が残るのみで、ほかに痕跡は見つかりませんでした。もう1つは周辺部に石鍋製作遺跡の存在を確認することができなかったことです。私は「一山一遺跡」という概念をもっています。多くは目一つ坊やホゲットのように1つの山に幾つかの製作遺跡が残っていますが、ここは今のところ該当しないのです。今回この地点は初めての踏査だったので、何回か踏査を実施すれば解決するでしょう。現段階で気になる点はこのぐらいでしょうか。

最後に搬出経路ですが、東側の谷を使って搬出した可能性が高いようです。製作遺跡のすぐ下に谷はありますので、これを使った方が自然ではないかと思われます。最終的にどの積出港に運搬したかは不明ですが、おそらく瀬戸方面かあるいは雪浦方面に向けて運搬したのではないかと考えます。もしかしたら、大串方面にもって行ったことも可能性の1つとして考えられますね。

今後も長崎石鍋記録会ではこのような踏査を実施しますので、情報がありましたら何でも結構ですので事務局に連絡して下さい。
(文責：土の子)



写真1 草木原第3石鍋製作遺跡
調査状況（南から）



写真2 岩壁面状況（北から）



写真3 岩壁面状況（上から）



写真4 掘削状況（中心…円形
割付



写真4 岸壁面状況（東から）



写真6 掘削状況（方形割付と思われる）



写真7 方形割付（北から）



写真8 ノミの残存状況（北から）



写真10 円形割付状況（北から、長径約60cmを測る）



写真9 掘削失敗品（北から、中央上が欠損している）

草木原第3製作遺跡（ホームページ版）



写真11 掘り下げ状況（掘削面がまだ続く状況がわかる）



写真12 岩脈境界状況（右…変成岩，左…蛇紋岩）



第1図 草木原第3石鍋製作遺跡位置図